

領域	科目名	単位	時間数	対象学年	開講期間	担当講師
専門分野 I	問題解決技術論 演習	1	30	1 年次	9 月	田中紀代美
授業概要 看護における問題解決過程の基礎的知識を理解し、その方法を学ぶ。						
科目目標 1.看護過程の基本構造・意義や看護過程の枠組み（ロイ適応看護モデル）を理解し、対象の健康問題を解決するために科学的根拠に基づいた看護実践の基礎的能力を習得する。						
使用教材 テキスト：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I，医学書院 小田正枝 編，ロイ適応看護理論の理解と実際，医学書院 松木光子 監訳，ザ・ロイ適応看護モデル，医学書院 高木永子 監修，看護過程に沿った対症看護，学研 NANDA-I 看護診断定義と分類：医学書院 参考文献等：看護生理学，メヂカルフレンド社 症状別看護ケア関連図，中央法規 NANDA-I-NIC-NOC の基本を理解する，医学書院						
評価 筆記試験 学習課題、レポートの提出状況						
授業計画						
時間・回数	授業内容					方法
4 時間・2 回	1. 看護過程とは 1)看護過程の 5 つの構成要素 2) 5 つの構成要素の関係 3)看護過程を用いることの利点 2.看護過程を展開する際に基盤となる考え方 1)問題解決過程とは 2)クリティカルシンキングとは 3)リフレクションとは 3.看護過程の各段階 1)アセスメント（情報の収集と分析） 2)看護問題の明確化（看護診断） 3)看護計画 4)実施 5)評価					講義

領域	科目名	単位	時間数	対象学年	開講期間	担当講師
専門分野 I	問題解決技術論 演習	1	30	1 年次	9 月	田中紀代美
時間・回数	授業内容					方法
8 時間・4 回	4. ロイ適応モデルにおけるメタパラダイム 1)人間、環境、健康、看護とは 2)ロイ適応モデルの基本となる前提 3)メタパラダイムの相互関係 5. ロイ適応モデルの概念構造 1)適応システムとしての人間、対処プロセス 2)適応様式（生理的様式・自己概念様式・役割機能様式・相互依存様式） 6. ロイ適応モデルに基づく看護過程 1)ロイ適応モデルに基づく看護過程の構造と機能 2)ロイ適応モデルに基づく看護過程の記録					講義 演習（個人、グループワーク） 演習（全体発表）
17 時間・9 回	7. ロイ適応モデルに基づく看護過程① 1)第 1 段階（行動のアセスメント：生理的様式①） 情報の整理と解釈の仕方 8. ロイ適応モデルに基づく看護過程② 1)第 1 段階（行動のアセスメント：生理的様式②） 9. ロイ適応モデルに基づく看護過程③ 1)第 2 段階（刺激のアセスメント） 2)看護診断 10. ロイ適応モデルに基づく看護過程④ 1)関連図 11. ロイ適応モデルに基づく看護過程⑤ 1)優先度の設定と目標および介入計画の立案 2)実施評価の仕方 【事例】19 歳女性 肺炎					講義 演習（個人、グループワーク） 演習（全体発表）
1 時間・1 回	筆記試験					
備考 ○関連科目：人間工学、生活科学、社会学、心理学、解剖生理学、代謝学、病理学総論、疾病論 I（呼吸器）看護学概論、観察技術論演習、日常生活援助技術論演習 I～III、臨床看護総論、成人看護学 ○授業内容により適宜課題を課すことがある。 ○テキスト「ザ・ロイ適応看護モデル」は授業までに各自読むこと。 ○必ず個人で学習した上でグループワークに臨む。 ○グループワークや演習を通して自分の意見を発表し、他者の意見を取り入れる中で考えを深めていくことをねらいとする。 ○問題解決技術論実習前につながる学習となる。						